

2. シンポジウム企画委員会のミニシンポジウム(1994.4~2017.3)

開催年月	開催場所	通し番号	ミニシンポジウム企画名
1994.04	東水大	1	アカイカ流し網代替漁法の展望
		2	魚介類筋肉タンパク質の構造と機能の解析
		3	貝毒対策の問題点
		4	漁獲技術研究における国際協力の事例と将来展望
		5	ガス置換包装における水産物の品質保持
1994.10	三重大生	6	コンブ目植物の生態と増養殖技術
		7	熊野灘漁業の現状と将来
1995.04	東水大	8	国内産アワビ・トコブシの安全性
		9	水産生物におけるD型アミノ酸の分析法, 分布及び生理機能
		9	京大総合
1996.04	日大生資	10	魚類の筋肉プロテアーゼー基礎と応用ー
		11	海洋生物の回遊環境履歴解析
		12	海洋生命科学における糖鎖生物学・工学
		13	魚類のゲノム解析とその必要性
		14	相模湾における漁業と海域利用の将来展望
10	九大法文	15	フグの毒性に関する緊急課題
		16	魚介類の培養栽培を活用した研究
		17	魚類の聴覚特性ー内耳と側線ー
1997.09	広大総合	18	沿岸漁業における漁具の選択性Ⅰー網漁具ー
1998.04	東水大	19	沿岸漁業における漁具の選択性Ⅱー釣・陥穿漁具ー
		20	水産生物における内分泌擾乱物質
1999.04	東水大	21	薬物速度論的解析における水産物医薬品の体内動態ー投薬法の評価に関連してー
		22	漁具の流体力学的側面Ⅰー基礎的研究の現状と課題ー
		9	東北大農
2000.04	東水大	23	これからの栽培漁業研究ー今, 何が問題か?ー
		24	漁具の流体力学的側面Ⅱー応用的研究ー
		25	魚肉軟化とコラーゲン分解
		26	超小型記録装置による魚類の遊泳行動研究ー現状と展望ー
9	福井県大	27	水産ゼロエミッションの現状と課題
2001.04	日大生資	28	カタクチイワシ資源の今を考える
		29	ワムシ大量培養法の進展とその現状
2002.04	近大農	30	水生無脊椎動物をめぐる最近のトピックス
		31	マングローブ沿岸生態系における地球温暖化ガス収支
		32	フグの毒蓄積機能ーフグはなぜ毒をもつのかー
2003.04	東水大	33	海洋動物の刺毒に関する最近の知見
2004.04	鹿大郡元	34	頭足類学の胎動ー分子解析から資源変動までー
		35	干拓域の一次生産者ーその生態と機能ー
		36	水棲動物のリポタンパク質・ホスオリパーゼA2・レプチン受容体
		2005.04	海洋大
2006.04	高知大朝倉	38	ゴーストフィッシング研究の現状と方向性
		39	クロマグロの初期発育と種苗生産ー現状と展望ー
2007.04	海洋大	40	魚類の発生工学の現状と展望
		41	海藻類の単細胞化とその産業利用
		42	水産分野における知的財産に関する問題(公開ミニシンポジウム)
2007.09	北大水	43	水産科学に携わる女性研究者の現状と展望
2008.04	東海大海	44	多獲性浮魚を対象とする漁業生産システムの再構築
		45	熱帯/亜熱帯産有毒魚類と底生性有毒微細藻に関する緊急の課題
		46	開放的な砂浜海岸における水産生物と環境ー吹上浜をモデルとした生態研究ー

		47	次世代型魚類養殖給餌システム開発の現状と展望
2009.03	海洋大	48	水産実験所から始まる新しい水産研究と教育
		49	ノリ病気研究の現状と展望
10	北里大	50	宮古湾をモデルとした資源の増殖と管理の試み～栽培漁業の基礎研究から効果の実証まで～
		51	板鰓類資源の保全と管理における現状と課題
		52	アユ釣りの科学—研究者と釣り人がアユを語る—
2010.03	日大	53	沿岸域の生物に関する予測評価
		54	深層水の新たな展開
9	京大総合	55	海洋高次捕食者と漁業との競合問題 ～食害対策における情報の共有化～
		56	瀬戸内海の栄養塩不足とその対策—河川水利用技術の開発—
		57	海洋動物の群れを考える—社会性・生態・遺伝子の視座から—
		58	沿岸域における有害有毒プランクトンの発生メカニズムと予知
2011.03	海洋大	59	イカ類資源の世界的需供の変化と国内産業の展開
2011.09	長崎大	60	環東シナ海研究のこれまでとこれから 国境を越えた海洋研究ネットワークの充実に向けて
2012.03	海洋大	61	水産資源管理に向けた魚類の行動研究
2012.09	水大校	62	低魚粉飼料の栄養評価と飼育魚の健康評価
		63	養殖業の未来 —生産から利用・流通・市場まで—
2013.03	海洋大	64	水圏におけるハイブリッドとクローン—生態系における役割と応用可能性—
		65	小型底びき網漁業における省エネ・省力化を目指した技術開発
2013.09	三重大	66	海女漁業の現状と将来展望
		67	選択漁獲は古いのか?! — Science論文の意義を探る
		68	志摩半島周辺海域における二枚貝類養殖の現状と将来展望
2014.03	北大水	69	水産物の生産・加工・流通段階を保障するリスク管理研究の最新動向
		70	データ高回収率を実現するバイオロギングシステムの構築～魚類の個体群・群集ダイナミクス解明に挑む～
		71	微量元素・同位体を指標とした沿岸域の物質動態研究の現状と展望
2014.09	九大農	72	頭足類学の創成 —水産学における応用的基礎として—
		73	水産物におけるゲノム編集の現状と展望
		74	クルマエビ栽培漁業の今後を考える
2015.03	海洋大	75	若手が拓く水産学研究:国際舞台で活躍する若手研究者たち
		76	調査捕鯨と国際司法裁判所(ICJ)判決
2015.09	東北大農	77	フグ食の安全性確保—日本沿岸フグ類の分類と毒性の見直し
		78	水産分野のキャリア教育—高校・大学・産業界における課題と期待—
2016.03	海洋大	79	エリアケイパビリティアプローチによる漁村開発
		80	漁業資源の今とこれから
		81	水産資源の持続的利用と認証制度 —東京オリンピックで日本の水産物を提供できるのか?—
2016.09	近大農	82	ICTの水産業への導入:最前線と今後の課題
		83	水産分野におけるタンパク質研究の現状と展望
		84	日本の野生メダカの保全と新たな課題—個体群減少と遺伝的攪乱—
		85	水産教育の現場から次世代育成を考える